

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	産業研究所
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 研究プロジェクトの構成は、研究員の所属が偏らないようにする。	→新規の研究プロジェクトの構成は、研究員の所属が3部局(学部・研究科)以上とする。	B
2. 研究プロジェクトの構成は、本学教員に限らず、学外からも専門家を客員研究員として加える。	→新規の研究プロジェクトについては、客員研究員が2名以上加わる構成にする。	A
3. EUIJ関西事業の推進のために、EU研究者を教員として、産業研究所に配置する。	→2010年現在欠員のEUIJ関西事業を推進する教員1名を2011年度に配置する。	C
4. 学外機関や社会との連携を深めるため、産業研究所で研究活動を行う受託研究員・学外研究員を受け入れる。	→産業研究所で研究活動を行う受託研究員・学外研究員を毎年1名以上迎える。	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

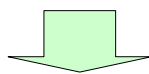
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	小項目 11.0.2	(方針) (現状説明) 現行の3研究プロジェクトの共同研究員は、学内横断的な陣容であり、また必ず学外の客員研究員がいる。EUIJ関西事業を担当する教員1名(任期制教員)は、現在欠員である。
☆	小項目 11.0.3	(現状説明) EUIJ関西事業担当教員は、前任者が2009年度に他部局へ移籍したが、実質的にはその後も事業を担っていた。しかし、2011年度から兼任が無理となり、現在、後任者を募集中である。
☆	小項目 11.0.4	(現状説明) EUIJ関西事業担当教員が不在のため、評価できない。なお、産業研究所は独自で開講していないため、EUIJ関西担当教員の非常勤講師でのFDについては、各学部依存している。
☆	その他	EUIJ関西担当の前任者は、EUIJ関西の修了証プログラムの授業を学部2講義、大学院2講義受け持っている。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目 11.0.2	
小項目 11.0.3	
★ 小項目 11.0.4	
その他	



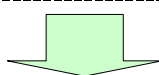
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目 11.0.2	
小項目 11.0.3	
★ 小項目 11.0.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目 11.0.2	
★ 小項目 11.0.3	産研教員 (EUIJ関西担当教員) の選考について、内規が整備されていない。
小項目 11.0.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目 11.0.2	
★ 小項目 11.0.3	現在進行中のEUIJ関西担当教員の選考過程をもとに、任期制教員を前提とした内規(手順) をまとめる。
小項目 11.0.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	国際性や社会連携性のテーマを選ぶと、共同研究員の選択の幅が狭くなる。若手教員で、専門外の分野にも積極的に参加する意欲的な人材を発掘することは大きな課題である。
-----------------	---

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

- 現状説明の小項目11.0.2では、(方針)についても記述してください。現状説明では、事実を述べるだけでなく、それらを、小項目ごとの評価視点から考えてどう評価するのかについて記述してください。
- 小項目11.0.2の現状説明では、まず教員組織の編成方針について触れてください。目標に設定されているようなことがそれにあたるように思います。
- 目標の設定が単年度であったり、目標というより方針であったりするので、中期的な目標をあらたに設定されることを望みます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

《小項目ごとの現状説明》11.0.2の追加
(方針)

産業研究所事業の基本は、共同研究活動におくため、その構成員はテーマごとに編成する方針である。

- ★ (現状説明)
現行の3共同研究プロジェクトの態勢は、産業研究所の学際的で、実証的で、研究と現場を橋渡しする理念・目的に合っている。EUIJ関西事業担当教員は、任期制で常時産業研究所に配置し、EU科目の講義、EUIJ関西事業の支援にあてる。教員が充足されて後の中期目標設定はありえる。

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

11.0.0.S1	専任教員一人あたりの在籍学生数
11.0.0.S2	開設授業科目における専任比率
11.0.0.S3	専任教員の年齢別構成
11.0.0.S4	教員一人当たりの授業時間数
11.0.0.S5	本学出身の専任教員の構成比率
11.0.0.S6	海外の大学で学位を取得した専任教員の比率
11.0.0.S7	教員組織における実務家教員の占める割合(専門職大学院に限定)
11.0.0.S8	教員組織における女性教員の占める割合
11.0.0.S9	任期制教員(契約教員)の採用数
11.0.0.S10	実験実習指導補佐、教務補佐、授業補佐の採用数
11.0.0.S11	ティーチング・アシスタント(TA)の採用数
11.0.0.S12	契約助手の採用数
11.0.0.S13	実験助手の採用数
11.0.0.S14	リサーチ・アシスタント(RA)の採用数
11.0.0.S15	公募制による採用教員の数

<個別的な指標>
